

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	130:水と緑を活かした、美しい景観をつくる
施策	132:水と緑に親しめ、安らぎが実感できる空間をつくる
施策の目標	魅力的な水辺空間や緑豊かな公園が、区民のやすらぎの場となっているとともに、建物の周りなどにも緑が増えるなど、うらおいのあるまちになっています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「墨田区の水と緑の豊かさ」を感じる区民の割合	%	37.0					45.5
みどり率	%	24.5					

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区立公園管理面積(公園、児童遊園)	m ²	631,241	638,254	638,309	638,309	639,288
区管理内路上生活者概数(例年1月実施の調査結果)	人	34	26	20	18	16
公園、児童遊園における陳情数の推移	件	643	580	478	444	807

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>・東京スカイツリー開業時を目標として優先的に整備した大横川親水公園、北十間川水辺空間においては、公園機能が大幅に向上した。しかしながら、このほかの公園・児童遊園施設は依然として老朽化が著しい。このため、開園当初に比べ利用者や地域住民のニーズが変化・多様化していることから、再整備や維持に関する事業を拡大して行く必要がある。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>・東京スカイツリーの開業を契機に多くの観光客が区内を訪れ、まち歩き観光をする上で水や緑のある公園は休憩スポットなどの重要な役割を担うため。</p> <p>・施設の老朽化や利用者ニーズの変化・多様化に対応した施設の再整備や維持管理を行う必要があるため</p>
【今後の具体的な方針】
<p>・区民や観光客が水と緑に親しめるよう、地域の特性を考慮し、利用者ニーズを反映した施設の再整備や維持管理を進めていく。また、区民が公園施設の維持管理に携わることで、公園への愛着心の増加につながることから、公園愛護会、魅力ある公園花壇づくり等における活動が活性化するよう働きかける。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	横十間川等整備事業	都市整備課	3,888	現状維持	
2	荒川自然生態園整備事業	都市整備課	136	現状維持	
3	荒川パーククリエイター連絡会事務	都市整備課	80	現状維持	
4	北十間川隅田公園観光回遊路整備事業	都市整備課	3,083	現状維持	
5	江東内部河川遊歩道整備事業	都市整備課	38,648	現状維持	
6	河川護岸の維持管理(施設点検)	都市整備課	247	現状維持	
7	河川占用許可事務	土木管理課	6	現状維持	
8	公園・児童遊園占使用許可事務	土木管理課	10	現状維持	
9	土木施設監察事務	土木管理課	50	現状維持	
10	隅田公園等適正化対策事業	土木管理課	123	現状維持	
11	公園維持管理事業(警備委託)	土木管理課	32,702	現状維持	
12	公園愛護委員会支援事業	道路公園課	4,806	現状維持	
13	公園・児童遊園用地賃借料事務	道路公園課	4,968	現状維持	
14	街路樹及び緑地帯維持管理事業	道路公園課	83,585	現状維持	
15	河川護岸維持管理事業	道路公園課	19,166	現状維持	
16	公園維持管理費	道路公園課	507,805	現状維持	
17	親水公園維持管理事業	道路公園課	112,970	現状維持	
18	荒川四ツ木橋緑地整備事業	道路公園課	3,366	現状維持	
19	魅力ある公園花壇づくり事業	道路公園課	358	現状維持	
20	公園遊具安全管理事業	道路公園課	33,161	現状維持	
21	こども広場維持管理事業	道路公園課	5,314	現状維持	
22	公園新設再整備事業	道路公園課	211,154	拡充	高齢者や子育て世代にやさしい公園など、多様化する要請に対応するため、特色ある公園づくりを進める必要がある。
23	親水公園整備事業	道路公園課	0	現状維持	

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止・廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 1

作成年月日: 平成28年6月22日

事務事業名	横十間川等整備事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	横十間川かわまちづくり整備事業費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

東京都江東治水事務所が行う横十間川の河川整備に伴い、横十間川と豎川の合流部付近における豎川親水公園及び豎川第一公園を含めた総合的な利活用計画を策定し、河川利用者や観光客に寄与する整備を行う。 根拠法令:河川法、都市公園法、墨田区立公園条例	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民、観光客等					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
東京都の横十間川河川整備事業に合わせ、漕艇庫や弓道場を移築し、豎川合流部後背地の総合的な再整備					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
良好な河川環境に親しみ、舟運により水辺で賑わい、発災時の水上輸送拠点としての安全・安心も保たれている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)				目標値			
				実績値			
成果指標 (目的に対する指標)	墨田区の水と緑の豊かさを感じる割合 (墨田区基本計画より)		%	目標値	37	37	37
				実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
・平成26年度に、漕艇庫を移築し、弓道場は移築工事に着手した。 ・平成27年度は、合流部付近の基本設計を行い、整備計画案の検討を行った。また、漕艇庫浮棧橋の撤去工事を行った。 ・事業敷地が江東区との区境となっていることから、江東区とも十分に調整を行う。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川総務費	
27年度 歳出予算額	4,000	27年度 歳出決算額	3,888	27年度 執行率	97.2%	28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>東京都の河川整備事業に合わせて整備することで、横十間川の河川テラスと一体的な活用を図ることができ、観光振興プランに掲げた水辺空間を活用した賑わい創出に寄与する。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>水辺や緑に親しめるとともに、イベント等による広場の活用、観光舟運との連携による水辺の賑わい創出を図ることができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>東京都、江東区、墨田区で役割を明確にすることで、周辺一帯の再整備が図られる。</p>				
(4)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の河川整備事業とのスケジュール調整が必要である。 ・整備後の維持管理等について、江東区との調整が必要である。 			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	河川整備事業と合わせて施設整備を行うことで、横十間川の河川テラスと豎川合流部付近の総合的な利活用が図られる。
今後の方向性 (見直しの視点)	河川整備、後背地の整備等を早期に進めていくために、東京都や江東区など関連部署との調整を密に行なう。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	荒川自然生態園整備事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	荒川自然生態園整備事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

平成8年度から荒川をよくする墨田区民会議を開催し、荒川河川敷の将来像等について議論してきた。平成23年度に荒川将来像計画2010地区別計画を作成し、隅田水門付近の自然地の利用計画が具体化され、平成24年度から国土交通省が先行して基盤整備工事を行っている。 根拠法令：河川法、都市公園法、墨田区立公園条例	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民、荒川河川敷利用者					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
国による基盤整備工事が完了した後に、区が河川占用許可を受けて自然地理整備工事					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
水辺に親しみ、ゆとりと安らぎを実感でき、高齢者から子供までの幅広い年齢層の地域コミュニティー場として賑わっている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	荒川パーククリエイター連絡会の開催回数	回	目標値			2
			実績値			2
成果指標 (目的に対する指標)	荒川自然生態園整備面積	㎡	目標値			
			実績値	0	0	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・国の基盤工事が難航し、区の事業スケジュールに遅れが生じている。 ・今後も国と協力しながら、事業の進捗を図るとともに、公園整備後の区民との協働による維持管理手法についても調整を進める。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	200	27年度 歳出決算額	136	27年度 執行率	68.0%	28年度 歳出 予算額	199
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>「荒川将来像計画2010地区別計画」に自然地整備が位置付けられており、国の基盤整備工事も進められている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>自然度の高い空間を再生することで、自然観察・体験活動の拠点として活用できる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>国との役割分担のもと事業を進めている。</p>				
(4)現状と課題	<p>国の基盤整備工事が遅れており、区の自然地整備工事のスケジュール等の見通しがつきづらい。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>国の基盤整備工事の進捗にスケジュールが左右されるが、荒川将来像計画にも自然地整備を位置付けており、継続して実施する。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>早期に自然地が整備されるよう、国と連携を密にしてスケジュール等の調整を行っていく。整備後の自然地の維持管理については、区民等との協働により実施できるよう、活動団体の組織づくりや運営のあり方を策定していく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	荒川パーククリエイター連絡会事務		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	荒川パーククリエイター連絡会経費		執行実績報告書ページ	148

1 事業の概要

荒川将来像計画2010地区別計画において、新たに整備される荒川自然生態園の維持管理の手法として掲げられた、協議会方式による維持管理を具現化する。 根拠法：河川法、都市公園法、墨田区立公園条例	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
隅田水門脇自然地					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
荒川パーククリエイター連絡会、フィールドワーク活動					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
荒川将来像計画2010地区別計画で掲げられた協議会方式による維持管理ができています					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	荒川パーククリエイター連絡会の開催回数		回	目標値			2
				実績値			2
成果指標 (目的に対する指標)	「墨田区の水と緑の豊かさ」を感じる区民の割合(墨田区基本計画より)		%	目標値	37	37	37
				実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
・平成26年度から、荒川四ツ木橋緑地において(仮称)荒川パーククリエイターを運用し、フィールドワークを通じて自然地の維持管理・運営の仕組みづくりについて検討を進めた。 ・平成27年度に、「荒川将来像計画2010地区別計画(墨田区編)」及び「荒川下流自然地管理・運営計画」で掲げている隅田水門脇自然地の維持管理・運営計画の構築を目的として、(仮称)荒川パーククリエイターを実施した。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度歳出予算額	194	27年度歳出決算額	80	27年度執行率	41.2%	28年度歳出予算額	133
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	ない
<p>荒川将来像計画2010地区別計画に基づき、隅田水門付近の自然地の整備及び維持管理を行っていくが、その維持管理方法について荒川パーククリエイターの活動を踏まえ、検討していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	ない
<p>本事業の運用結果から、荒川の自然地における維持管理・運営の仕組みの基礎を構築することができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	
<p>荒川パーククリエイター連絡会を継続していくことで様々な活動団体の連携が図られ、荒川パーククリエイター等による協議会を構築することが出来る。自然地の維持管理費の軽減にもつなげることができる。</p>				
(4)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動団体と連携して活動していくとともに、新たな活動団体を模索する必要がある。 ・荒川パーククリエイター連絡会等を通じて、活動団体同士の交流を図る必要がある。 			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	荒川将来像計画2010地区別計画に位置付けられている自然地の整備を見据えながら、連絡会、フィールドワーク活動を継続して実施していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	区民等と協働して荒川の維持管理を行う仕組みづくりについて、荒川パーククリエイター連絡会等において検討していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業費		執行実績報告書ページ	159

1 事業の概要

北十間川西側区間(隅田川から東武橋付近)において、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、浅草・東京スカイツリー間の賑わい創出と観光回遊性向上に資するため、水辺を中心とした鉄道高架下、北側区道、隅田公園(南側の一部)等を含む一体的な空間整備を行う。 根拠法令：河川法、道路法、都市公園法、墨田区立公園条例	事業開始年度	平成18年度
	終了予定年度	平成32年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民、観光客など					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
関係機関等と連携し、北十間川の耐震護岸整備や東武鉄道高架下の活用、コミュニティ道路整備や景観に配慮した隅田公園整備等					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
観光舟運やまち歩き観光により賑わい、回遊性が行われている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	関係機関との検討会開催回数		回	目標値	3	4	3
				実績値	3	4	3
成果指標 (目的に対する指標)	北十間川テラス・区道・隅田公園の整備面積		㎡	目標値			
				実績値	0	0	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
・整備及び整備後の良好な利活用に向け、東京都などの関係機関との検討に加えて、地元町会・商店会を交えた勉強会を開催している。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園新設改良費	
27年度 歳出予算額	3,242	27年度 歳出決算額	3,083	27年度 執行率	95.1%	28年度 歳出 予算額	41,544
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
舟運等による水辺の利活用やまち歩き観光が図られ、観光回遊や水辺活用のニーズに対応していくことができる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
地域一帯のまちづくりの視点により事業を進めることで、観光客等の回遊性の向上が北十間川付近だけの賑わいに限らず、周辺地域へ波及していくことにつながる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
関連事業や関係機関等が多岐に渡り、周辺地域への影響も大きい。検討会や地元勉強会を通じて調整を図り、効率的な事業進捗を図る。				
(4)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 各事業のスケジュールや整備計画を踏まえた調整が必要である。 河川敷等の活用において、地元町会や区民、関係団体等との調整、周知が必要である。 			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	計画にのっとり事業を進める他、周辺地域への観光回遊性の促進を図るうえで、地域とともに取り組んでいく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	河川法に基づく河川敷地占用許可準則の特例による河川敷地の利活用を図っていくため、地域とともに活用策を検討、地元の合意形成を図っていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年 第3回定例会	
	要旨	隅田公園にあるトイレが古く、改修する必要がある。	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	江東内部河川遊歩道整備事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	豎川遊歩道整備事業費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

水辺を十分に活かし、都市生活に潤いと安らぎを与える水と緑の骨格軸を整備する。 根拠法令：河川法、都市公園法、墨田区立公園条例	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
区民、観光客など						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
江東内部河川の耐震護岸整備後に植栽、照明施設等の整備						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
耐震護上をまち歩きや散策に利用している						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	植栽、照明施設等の整備延長	m	目標値			5,355
			実績値			2,061
成果指標 (目的に対する指標)	遊歩道化開放区間	m	目標値			5,355
			実績値			1,887
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・豎川は、平成28年4月に一之橋から塩原橋間を遊歩道として開放した。 ・北十間川は、平成25年5月に京成橋から十間橋間まで(西十間橋下を除く。)、平成27年1月に十間橋から境橋東側約370mまで(横十間川合流部を除く。)を遊歩道として開放した。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川施設建設費	
27年度歳出予算額	44,000	27年度歳出決算額	38,648	27年度執行率	87.8%	28年度歳出予算額	99,200
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	ない
沿川住民等の散策や観光客によるまち歩きが図られ、水辺で潤いと安らぎを感じることができる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	ない
植栽による安らぎや憩い、照明施設等による安全確保等にも対応している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	
東京都の耐震護岸整備と区の照明施設等の整備を連続して効率的に進めている。				
(4)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関のスケジュールや整備計画を踏まえた調整が必要である。 護岸の開放について、地元で周知し理解を得る必要がある。 			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	耐震護岸整備工事のスケジュールにあわせて、東京都と連携し、引き続き取り組んでいく。
今後の方向性 (見直しの視点)	植栽や照明施設等の整備を行い、地元の理解のもとで遊歩道化を進める。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	平成28年 予算特別委員会	
	要旨	護岸の整備箇所により整備のグレードが異なっている。	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	河川護岸の維持管理(施設点検)		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	護岸維持事業費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

「特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例」に基づき、河川管理の一部を区で行うこととなっており、区内内部河川の護岸等、河川管理施設の適正な維持管理を行う。 根拠法：河川法、特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例	事業開始年度	昭和28年度
	終了予定年度	-

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
船舶を利用した護岸等河川施設の調査点検や、地震時における護岸調査	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
適正な護岸等の維持管理のもと、洪水や高潮から守られ、河川テラス等も安全快適に利用できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	護岸延長	m	目標値	16,308	16,308	16,308
			実績値	16,308	16,308	16,308
成果指標 (目的に対する指標)	「地震などの災害対策」の満足度の割合(住民意識調査)	%	目標値			
			実績値		11.3	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・毎年、船舶を利用した護岸等河川施設の調査点検を実施している。地震時における護岸損傷を把握するための点検も実施している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川総務費	
27年度 歳出予算額	871	27年度 歳出決算額	247	27年度 執行率	28.4%	28年度 歳出 予算額	8,417
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
河川に起因した自然災害等から区民を守るために、河川管理施設の維持管理を行政が確実に実施する必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
継続して施設点検を行うことで河川管理施設を適正に維持管理できる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
業務委託により実施することで業務の効率化、経費削減が図られている。				
(4)現状と課題	東京都が江東内部河川の護岸の耐震化を進めているが、計画どおり整備が進捗するよう協議、調整を行っていく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	定期的に護岸調査等を行うことにより、内部河川の護岸等が適正に維持管理される。
今後の方向性 (見直しの視点)	引き続き河川管理施設の適正な維持管理に努めていく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	河川占用許可事務		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6282
予算書名称	道路、河川及び公園占用許可事務費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

河川の適正利用を目的に、特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例に基づき、土地の占用や工作物の新築等の許可及び徴収事務を実施する。	事業開始年度	昭和18年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
荒川及び隅田川を除く、区が管理する内部河川(旧綾瀬川、旧中川、北十間川、横十間川、大横川、豎川)の利用者及び占有者		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
河川関係法令に基づく各種申請への適正な処理や、違法に占用している者への是正指導		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
公共用物としての河川が適正に管理され、区民等が自由に利用できている		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	河川占用許可件数	件	目標値			
			実績値	58	81	63
成果指標 (目的に対する指標)	区管理河川の不法係留船舶数	%(隻)	目標値			
			実績値	44.4(24)	29.6(16)	3.7(2)
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・不法係留船舶数は、毎年東京都からの依頼で実施している「河川における係留船舶の実態調査」の数値である。 なお、分母となる数値を、現在把握している最大隻数(平成22年度の54隻)とし、その隻数と当該年度の隻数との割合(当該年度隻数 / 54隻 × 100)を成果指標としている。 ・豎川及び大横川における不法係留船舶については、警告等により適切に指導した結果、現在は、豎川の2隻のみとなった。 ・旧中川の河川区域における土地等の占用については、平成27年度も継続して指導している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度歳出予算額	27	27年度歳出決算額	6	27年度執行率	22.2%	28年度歳出予算額	18
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	河川流水占用料等			収入額	41,731
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
都条例により実施している事業であり、河川の適正利用の観点から必要性は高い。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
監察による警告等を通じ、不法係留船舶等は減少している。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
担当者は1名、予算は旅費と調査手数料のみ。許可・占用料徴収事務も都条例で定められている。				
(4)現状と課題	不法占用者及び不法係留船舶の解消			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	「特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例」に基づく事業であり、区管理河川の適正な利用を確保するためには継続が必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の事業である豎川耐震護岸整備工事に伴い、工事に支障となる不法係留船舶について、是正指導等によりすべて解消する。 河川区域における土地占有者の実態を把握し、適正に指導する。 		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	公園・児童遊園占使用許可事務		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6282
予算書名称	道路、河川及び公園占用許可事務費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

都市公園法や墨田区立公園条例等に基づき、区立公園及び区立児童遊園の適正な利用を確保する。	事業開始年度	昭和32年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公園等利用者又は公園等占有者若しくは使用者					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
公園等の利用者に関する適切な案内を行うとともに、公園関係法令に基づく各種申請への適正な処理や、違法に占有又は使用している者への是正指導					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
公園等が適正に管理され、区民等が自由に利用できる					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公園占有許可件数	件	目標値			
			実績値	862	813	816
成果指標 (目的に対する指標)	公園禁止行為注意指導件数 (適正化事業や公園警備分は除く)	件	目標値			
			実績値	2	0	2
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
<ul style="list-style-type: none"> ・東京スカイツリーの開業後、墨田区への関心が多くなっているため、区内の公園等を利用したイベント等の相談や実施件数が高止まりしている。 ・適切な許可事務や注意指導を行うことにより、適正な許可件数や一般の利用を実現している。 						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度歳出予算額	11	27年度歳出決算額	10	27年度執行率	90.9%	28年度歳出予算額	11
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	公園及び児童遊園			収入額	28,777
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>年々種類を増している多様なイベント等を実施しながら、公園本来の効用を發揮していくためには、適正な許認可事務の執行が必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>申請数は高止まりしているが、適正な案内等により、公園等の適正な維持管理ができています。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園法及び墨田区立公園条例に基づき実施している。 ・占用料及び使用料を確実に徴収することにより、事業の効率性を確保している。 				
(4)現状と課題	<p>近年、占用許可件数は高止まりしており、一般利用に支障が出ないように調整が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>近年、公園を活用するイベント等が増加しており、一般利用に支障が出ないように調整が必要となっているため、許可事務及び適正な指導について、適正かつ公平に行う必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>公園等占用と一般利用の適正なバランスを維持しつつ、適正かつ公平な処理を行う。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	土木施設監察事務		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6282
予算書名称	土木施設監察指導事務費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

区が管理する土木施設を良好に使用するため、定期的なパトロールと陳情等による不定期な巡回を行い是正を促す。	事業開始年度	昭和50年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
墨田区が管理する土木施設(道路、公園)					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
定期的、計画的なパトロールによる継続的な是正指導					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
不法占用や不正行為が排除され、土木施設が本来の機能を良好に保っている					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	継続是正指導中の案件			件	目標値			
					実績値	59	48	69
成果指標 (目的に対する指標)	監察出動件数(通常・陳情)			件	目標値			
					実績値	182	268	143
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
・商品等を道路に出す等の不法占用や不法行為が長期化する是正指導案件が増加している。 ・監察業務のデータベース化により、継続的かつ計画的な是正指導を行う。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	61	27年度 歳出決算額	50	27年度 執行率	82.0%	28年度 歳出 予算額	61
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>区民の土木施設に対する不法占用や不法行為等への苦情や陳情は減少しているが、継続是正指導している案件が長期化している。区の監察による是正指導は、施設の適切な維持管理のために必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>苦情及び陳情案件に対する定期的かつ計画的なパトロールによる是正指導は、効果的であり適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連事業又は類似事業との統合はできず、受益者負担は不適切である。区の監察による是正指導がより効率的である。</p>				
(4)現状と課題	<p>土木施設の管理運営についての区民の関心は高く、安全で快適な施設管理が求められており、今後も監察による継続した対応が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	新しい区民の増加により、新たな視点での土木施設に対する指導が必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	監察指導事務体制の改善を図り、効率的で迅速な対応を行う。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	隅田公園等適正化対策事業		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6282
予算書名称	隅田公園等利用適正化対策経費		執行実績報告書ページ	148

1 事業の概要

隅田公園等の区管理用地内の路上生活者への注意・指導・警告を行い、自立支援を促す。	事業開始年度	昭和63年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公園等の路上生活者		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
定期的な警告・清掃と継続的な自立支援の案内・指導		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
路上生活者が自立して公園等から退去し、公園等が安全・安心に利用されている		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	定期警告・清掃の路上生活者対応出動件数	件	目標値			
			実績値	60	56	56
成果指標 (目的に対する指標)	墨田区管理分路上生活者概数(例年1月実施の調査結果)	人	目標値	0	0	0
			実績値	20	18	16
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
定期的な警告・清掃と適正利用の継続的な指導により、路上生活者は減少しており、公園等の利用適正化が進んでいる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	147	27年度 歳出決算額	123	27年度 執行率	83.7%	28年度 歳出 予算額	86
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>公園等の利用適正化のために、路上生活者への注意、指導及び警告は必要であり、事業を休止及び中止した場合、路上生活者が増大することが懸念される。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>定期的な警告と清掃を行うとともに、路上生活者へ継続的な自立支援を案内及び指導をすることは有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>警告及び清掃を合理的かつ能率的に継続して行うことにより、安全で快適な施設を保っている。</p>				
(4)現状と課題	<p>隅田公園等の管理運営について区民のニーズは高く、安全で快適な施設管理を求められており、今後も継続した対応が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>仮小屋の数は、減少しているが、仮小屋を持たない路上生活者が増加しているため、継続的な指導等が必要である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>公園等で起居している仮小屋を持たない路上生活者へは、直接説明することを繰り返し、自立支援を促す。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	公園維持管理事業(警備委託)		所管課・係	土木管理課占用担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6282
予算書名称	公園維持管理費(公園警備費)		執行実績報告書ページ	156

1 事業の概要

路上生活者への注意、指導及び自立支援のための相談窓口等の案内に重点をおいた公園警備委託事業を実施する。	事業開始年度	平成17年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区立公園及び児童遊園	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
庁舎閉庁時間帯について、委託警備員が区立公園等を巡回し、不法行為や危険行為等の発見と是正のための働きかけ	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区立公園等が、安全・快適に利用されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	パトロール回数	回	目標値	365	365	366
			実績値	365	365	366
成果指標 (目的に対する指標)	不正行為等注意件数	件	目標値			
			実績値	11,821	12,091	15,578
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
<ul style="list-style-type: none"> ・継続したパトロールを行っていることで、公園での大きな事故が起きていない。 ・平成27年度パトロールは、16時間勤務を243回、24時間勤務を123回行った。 ・おしなり公園警備については、123回行った。 						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度歳出予算額	33,284	27年度歳出決算額	32,702	27年度執行率	98.3%	28年度歳出予算額	33,804
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>区民は安全で快適な公園等であることを求めており、その状態を保つためには、継続的なパトロールは必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>委託警備員が、毎日継続して巡回することにより、安全で快適な公園等を保っている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>庁舎閉庁時間帯に、全公園、児童遊園を不定期に巡回することで、効率性を向上している。</p>				
(4)現状と課題	<p>公園等について、安全で快適な公園を求める区民のニーズは高く、今後も費用対効果を勘案しながら、安全で快適な公園等を維持していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	安全で快適な公園を維持するために必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>陳情等の対応をスピード感を持って行う。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	公園愛護委員会支援事業		所管課・係	道路公園課計画調整担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6291
予算書名称	土木事業管理費		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

昭和52年4月10日の東向島ふじ公園における東向島ふじ公園維持委員会を第1号として、平成28年4月1日現在まで66の公園等で63の団体と協定を締結した。最近では、露伴児童遊園において協定を締結した。地元による清掃活動の支援を行っている。(区は、謝礼金支払、清掃道具の支給、ごみの収集運搬、害虫駆除、剪定など) 平成11年度からは「公園等愛護協定締結要綱」(平成11年10月4日制定)に基づく支援事業として実施している。(それ以前は、54墨建公第428号公園・児童遊園等愛護協定の活動に対する謝礼金の支払い基準により謝礼金の支払を行っていた：土木総務費)	事業開始年度	昭和52年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公園愛護委員会	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
公園愛護委員会の活動に必要な器具の提供や作業方法への助言等や「公園等愛護協定締結団体との意見交換会」の開催を行い、良好で効率的な活動が継続できるよう支援する。また、協定を締結していない町会等へこの制度の説明を行い、事業の理解を深めるとともに、公園の新設や改修時に新たな公園愛護委員会への参加の働きかけ	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
地元の公園に愛着を持ち、区との協働により公園の機能を良好な状態に維持すると同時に、地元住民のコミュニティ形成の場としても活用される	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公園等愛護協定締結団体数	団体	目標値			
			実績値	62	63	63
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度 (墨田区住民意識調査より)	%	目標値			
			実績値		20	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
事業開始時より協定の締結団体は増えており、公園に対する愛着も増加傾向にあると思われる。また、全公園、児童遊園の42%で、愛護協定が締結されている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費
27年度 歳出予算額	5,030	27年度 歳出決算額	4,806	27年度 執行率	95.5%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		4,950
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>事業へのニーズは横ばいである。事業を休止・中止した場合の影響は中程度である。 公園施設等の維持管理面や住民との協働面から必要性の高い事業である。 効果としては、公園等への周辺住民の関心を高める。公園施設等の現状(施設故障、違反行為等)を愛護団体を通じて把握できる。 清掃事業費等の削減が図れる。等である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標の実績値は横ばいである。 区民が自ら公園清掃活動等に取り組むことで、公園施設等への関心を高めるとともに公園利用マナーについて公園愛護委員会を中心とした啓蒙活動も活発化しているため有効性は概ね適切である。 また、地域コミュニティー形成の面でも、公園愛護委員会を中心とした活動は大きく寄与している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連・類似の事業との統合はできない。事業に係る経費は横ばいである。受益者負担には該当しない。 公園施設の管理面、公園利用マナーの向上、地域コミュニティーの形成等にとって効果的な事業であり、最小の経費で大きな効果を発揮しており、住民との協働事業としても効率的な事業といえる。</p>				
(4)現状と課題	公園愛護委員会の一部には、団体構成員の高齢化や固定化等の問題も生じており、活動休止している団体もある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。団体構成員に占める高齢者層に事業が負担にならないように、新規構成員の募集や活動内容を見直して活性化を図る必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	公園等愛護協定締結団体との意見交換会を継続して実施することで、良好な活動団体の紹介や活動における課題を全員で共有し、課題解決に向け取り組んでいく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	公園・児童遊園用地賃借料事務		所管課・係	道路公園課計画調整担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6291
予算書名称	都有地賃借料		執行実績報告書ページ	147

1 事業の概要

・さざんか児童遊園 昭和46年12月の開園から平成20年3月30日までは無償貸付契約であったが、地主である東京都財務局の方針転換により平成20年4月1日から土地の有償賃借契約を締結している。 ・たてかわばし児童遊園 東京都施工による豎川の耐震護岸工事の作業ヤードとして使用するため、平成24年4月1日より廃園としたことで、有償貸付から外した。 ・両国第一児童遊園 昭和56年12月から東京都交通局の行政財産の有償貸付を行っている。	事業開始年度	昭和56年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか								
区民					に対して			
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
両国第一児童遊園、さざんか児童遊園については、都有地を賃借した公園利用					を実施したことで			
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか								
区民にとって身近に憩える公園がある。					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	土地を賃借している公園数			箇所	目標値	2	2	2
					実績値	2	2	2
成果指標 (目的に対する指標)	区全域の公園面積 (墨田区公園マスタープランより)			ha	目標値	64	64	64
					実績値	64	64	64
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
賃借によって都市公園数及び面積が確実に維持されており、公園マスタープランで分析している「気軽に行ける範囲に公園がある状態」に貢献している。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度歳出予算額	5,029	27年度歳出決算額	4,968	27年度執行率	98.8%	28年度歳出予算額	5,220
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>事業へのニーズは横ばいである。区が事業実施すべき理由はある。事業を休止・中止した場合の影響は大きい。東京都(財務局、交通局)との公園用地の有償貸付契約に基づく事業であるが、財務局契約分には無償貸付契約の4児童遊園分も含まれているため、公園用地の確保のためには必要な事業である。 また、交通局契約分の両国第一児童遊園についても、昭和57年4月に開園以来、地域コミュニティ形成の場として活用されており事業効果は高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標の実績値は横ばいである。東京都が所管する用地を都市公園として区民に提供しており、都有地を効果的に活用し区民の福祉の増進に寄与しているため、有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連・類似事業との統合は出来ない。事業に係る経費は横ばいである。受益者負担には該当しない。 有償貸付2園、無償貸付4園が本事業の対象施設であるが、年間約5,000千円の賃借料で1870.54㎡の公園用地が確保されており、費用対効果の面から効率性の高い事業である。</p>				
(4)現状と課題	<p>東京都財務局から、有償貸付のさざんか児童遊園については買収を求められており、無償貸付4園の無償譲渡が附帯条件となっていることから、将来的には買収を検討する必要もある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。身近に憩える公園を利用者へ安定的かつ恒久的に提供する方法として、当該地の買収や代替地の確保などを検討していく必要がある。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>さざんか児童遊園については、大横川親水公園の未整備区域(撞木橋跡南側)との一体的な整備を進めていくためにも、当該地の買収を検討する。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	街路樹及び緑地帯維持管理事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6295
予算書名称	街路樹及び緑地帯維持管理費		執行実績報告書ページ	150

1 事業の概要

通行者が快適に通行できる良好な通行空間の確保を目的として、街路樹及び緑地帯の剪定、除草・清掃、害虫駆除等を適宜、適切に実施し、維持管理を行う。	事業開始年度	昭和36年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民、来街者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
街路樹と緑地帯の剪定、除草・清掃及び害虫駆除等	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
通行者が緑に親しみ、安らぎが実感できるような	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	街路樹剪定 延べ本数	本	目標値	4,173	4,177	4,181
			実績値	4,199	4,721	4,597
成果指標 (目的に対する指標)	「墨田区の水と緑に豊かさ」を感じる区民の割合	%	目標値			37.0
			実績値		36.4	45.5
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
既存の街路樹及び緑地帯において、植樹から30年以上経過した大木・老木が多数存在しているという課題もあるが、定期的な剪定、植替え等の維持管理を実施してきたため「墨田区の水と緑の豊かさ」を感じる区民の割合の向上につながった。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路等緑化費
27年度 歳出予算額	85,510	27年度 歳出決算額	83,585	27年度 執行率	97.7%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>ニーズは横ばい、中止及び休止の影響は大きい。 継続的に良好な環境を維持し、きめ細やかな対応が必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標は横ばい。 内容に応じ、専門業者への委託により実施しているため有効性がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業は無い。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 内容に応じ、専門業者への委託により実施しているため効率性は高い。</p>				
(4)現状と課題	<p>各路線ごとに夏季及び冬季剪定を実施しているが、植栽してから年数が経過し大木及び老木化した街路樹が、通行の支障となっている路線も見受けられる。 区民や観光客が安全・安心に歩行でき、街路樹によって憩いと安らぎの空間となるよう街路樹の再整備が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の重要性を重視。街路樹の本数及び緑地帯の面積の大幅な増加の見込みがないため現状維持とする。
今後の方向性 (見直しの視点)	街路樹の健全度調査の結果、老木化、大木化した街路樹が多いため、計画的に新しく花の咲く木への更新を進めていく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	河川護岸維持管理事業		所管課・係	道路公園課・維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	護岸維持事業費 河川区域内除草、草刈及び清掃経費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

旧河川法時代から機関委任事務として河川の維持管理を行っている事業で、現在では、地方自治法改正により、平成11年制定「特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例」に基づく法定受託事務として河川管理の一部を区で行っている。 なお、対象河川については、北十間川、横十間川、旧中川、大横川、竪川、旧綾瀬川である。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか		
区民、来街者		に対して
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		
河川敷の清掃、除草、草刈、樹木剪定、害虫駆除、施設補修、安全点検結果に基づいた転落防護柵等の補修工事、北十間川浄化施設の保守点検		を実施したことで
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか		
内部河川(北十間川、横十間川、大横川、竪川、旧中川)及び外周河川(旧綾瀬川)の護岸及び周辺が、良好な環境、景観に維持されており、安全や快適さを実感できる		状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	河川護岸の草刈り面積	㎡	目標値		42,876	38,070
			実績値		42,876	38,070
成果指標 (目的に対する指標)	「墨田区の水と緑に豊かさを感じる区民の割合 (墨田区住民意識調査より)」	%	目標値			37.0
			実績値		36.4	45.5

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

水と緑の豊かさを感じる割合の向上のため、河川護岸の清掃、除草、樹木剪定、護岸の補修を実施する。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川総務費	
27年度歳出予算額	26,658	27年度歳出決算額	19,166	27年度執行率	71.9%	28年度歳出予算額	48,042
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ニーズは横ばい。中止及び休止の影響は大きい。継続的に良好な環境を維持し、利用者の意見要望を適宜実施する必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指標の実績値は横ばい。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
関連事業の統合はできない。経費は横ばい。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため効率性は高い。				
(4)現状と課題	不法係留、不法投棄の防止に努める。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。人々が憩える水辺空間の良好な環境を維持するため、施設点検や維持補修作業を実施していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	東武橋以東の北十間川耐震護岸工事完了及び堅川耐震護岸工事完了(一部)に伴い、新規に築造したテラスや通路を供用開始している。このためテラス近隣の住民のプライバシーに配慮しつつ利用者がテラスや通路を快適に利用できるよう適正な維持管理を行っていく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

事務事業名	公園維持管理費		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しめ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	公園維持管理費、児童遊園維持管理費		執行実績報告書ページ	156

1 事業の概要

区民の健康及び福祉の増進と、生活文化の向上を図ることを目的として設置した公園・児童遊園139箇所を、安全で快適に利用できる環境としていくため、清掃・除草・樹木剪定・施設点検等を適宜、適切に実施し、良好な維持管理を行っている。	事業開始年度	昭和25年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
公園利用者					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
園内清掃、除草、樹木剪定、害虫駆除、施設点検、魚釣り場管理等の委託					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
誰もが公園・児童遊園を快適に利用でき、安全で安らぎが実感できるとともに、区民の健康及び福祉の増進と生活文化の向上が図れている					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	区立公園・児童遊園の平均清掃回数			回/月	目標値	8.0	8.0	8.0
					実績値	6.4	7.2	7.3
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度 (墨田区住民意識調査より)			%	目標値		20.0	
					実績値		19.9	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
公園・児童遊園に対する満足度を上げるため、公園の汚れ具合や施設の使い方に応じて清掃を増やしながらか実施しているため、目標値にほぼ達成できている。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	539,627	27年度 歳出決算額	507,805	27年度 執行率	94.1%	28年度 歳出 予算額	474,117
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	魚釣り場使用料			収入額	184
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ニーズは増大しており、中止及び休止の影響は計り知れない。公園がある以上継続的に良好な環境を維持し、利用者の意見要望を適宜実施する必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指標の実績値は横ばい。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため、有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
関連事業との統合はできない。経費は横ばい。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため、効率性は高い。				
(4)現状と課題	業務内容及び地域毎に集約すること等による業務委託内容の再編を検討する。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。陳情件数の増加や施設の老朽化を踏まえ、適切な清掃回数や施設改修の拡大を図る必要がある。一方、園内灯の改築・再配置、トイレの老朽化、肥大した樹木の抜本的対策を計画的に実施する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	公園利用者は公共公園に対し、安全性 快適性 憩える場の提供を要望として強く抱いている。その反面、ごみやペットのマナー違反、自転車のモラル、喫煙に対する意見や苦情が近年急増している。このため注意看板の設置を従来のランダムではなく、掲示板等を利用した集約形式で効果的効率的に注意を呼びかけていく。一方、実情に即したルール作りや新たな規則等を検討し早急な整備を図る。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第2回定例会、決算特別委員会
	要旨	デング熱対策の予定について(第2回定例会) 公園でのボール遊び禁止について(決算特別委員会) ドッグランの可否について(決算特別委員会)

事務事業名	親水公園維持管理事業			道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	親水公園維持管理事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

大横川親水公園、豎川親水公園を、安全で快適に利用できる環境としていくため、清掃・除草・樹木剪定・施設点検等を適宜、適切に実施し、良好な維持管理を行う。 管理面積については、平成25年度から業平橋橋台部分(629㎡)が新たに加わり、現在では76,273㎡の大規模な公園として維持管理を行っている。	事業開始年度	平成5年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公園利用者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
園内清掃、除草、樹木剪定、浄化施設等の保守点検および施設の改修	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
水と緑に親しみ、安らぎが実感できる公園となっている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	親水公園の清掃回数	回/月	目標値	8.0	8.0	8.0
			実績値	7.8	7.8	7.8
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度 (墨田区住民意識調査より)	%	目標値	-	20.0	-
			実績値	-	19.9	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
適宜、適切な施設の清掃等の維持管理を行っているため、満足度もほぼ目標値に達成できている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	121,912	27年度 歳出決算額	112,970	27年度 執行率	92.7%	28年度 歳出 予算額	141,034
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ニーズは横ばい、中止及び休止の影響は大きい。継続的に良好な環境を維持するために、利用者の意見・要望を適宜実施していく。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
実績値は横ばい、各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
類似事業との統合はできない。事業経費は施設の老朽化に伴い増大している。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため事業の効率性は高い。				
(4)現状と課題	完成から20年以上経過し、浄化施設にあるポンプ等が老朽化し、故障が多発しており、正常な稼働ができなくなる懸念がある。浄化施設全体の設備更新が必要であり、それに伴い業務委託内容の再編を検討していかなければならない。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。多岐にわたる委託契約を集約し、一括発注などにより、効率的かつ経済的な業務委託の実施を検討する必要がある一方、水や緑に触れ合えるという貴重な特色を持つ親水公園として引続き利用者に提供する必要があるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	大横川親水公園の浄化施設は東京都が予定している北十間川の耐震護岸工事に伴い取水口の閉鎖が見込まれている。さらに従来より課題である水処理施設や釣り堀のあり方に関する検討も含め、水問題は総合的に計画を立案しなければならぬ時期に来ている。一方で園路の自転車走行のマナー問題も順次解決していかなければならない。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成28年予算特別委員会	
	要旨	親水公園を活用した小規模保育について(平成28年予算特別委員会)	

事務事業名	荒川四ツ木橋緑地整備事業			道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	荒川四ツ木橋緑地整備事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

荒川をよくする墨田区民会議で提言された整備計画を基に、ヒノマイトトンボの保護、憩いの場や環境学習、サンクチュアリの自然地(通称:八広水辺公園)などの整備を行った。 現在では、八広水辺公園を中心に水と緑に触れ合える荒川四ツ木橋緑地公園の維持管理を行っている事業である。	事業開始年度	平成8年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
荒川四ツ木橋緑地利用者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
貴重な水辺空間である八広水辺公園等の適正な維持管理	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
緑地利用者が自然環境に触れ合え、潤いを与える	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	荒川四ツ木橋緑地公園面積	㎡	目標値			
			実績値	107,001	107,001	107,001
成果指標 (目的に対する指標)	「墨田区の水と緑に豊かさ」を感じる区民の割合(墨田区基本計画)	%	目標値			
			実績値	35.8	36.4	37.0

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

荒川四ツ木橋緑地(八広水辺公園)は、自然地等が大半を占める公園であり、定期的に除草等を行うことにより、適切な維持管理に努めている。また、河川敷の公園であることにより、水と緑の豊かさを感じる区民の割合の向上にも繋がるため、快適な公園利用に寄与する定期的な維持管理を図っていく。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度歳出予算額	4,252	27年度歳出決算額	3,366	27年度執行率	79.2%	28年度歳出予算額	4,608
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>ニーズは横ばい、中止及び休止の影響は大きい。実施に当たり継続的に良好な環境を維持し、利用者の意見要望を反映する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標は横ばい。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため、有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業は無い。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への委託により実施しているため効率的であると言える。</p>				
(4)現状と課題	<p>協力企業やNPO法人との連携についても協働の働きかけをしていく。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。引き続き利用者が親しみやすい自然空間として良好な環境の維持に努める。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者が親しみやすい自然空間を維持できるよう、既存公園施設の維持管理を継続して行っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	魅力ある公園花壇づくり事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しめ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	魅力ある公園花壇づくり事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

現在7公園(東向島北、業平、吾嬬西、日進、両国、つばき、ふじのき)で事業実施済みで、整備後はボランティア形式へ移行し、花壇の維持管理を実施中である。東向島北公園はボランティアの高齢化により活動を休止している。平成28年度から新たに立川第二児童遊園で活動を開始している。	事業開始年度	平成14年
	終了予定年度	平成34年

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公園利用者、公園ボランティア団体					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
会員が区及び講師のバックアップを受けながら、初年度は講師から花壇づくりの基本講義や実践を通じて学び、2年目は初年度で習得した知識等を活用し、各会員の自主性を尊重した花壇づくりを実施し、(3年目以降は公園ボランティア形式に移行した上で、各会員の自主性に任せた花壇づくり)					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民に身近な公園が花と緑にあふれ誰もが憩える場所となっている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公園ボランティア団体(花クラブ)数	箇所	目標値	5	6	6
			実績値	5	6	6
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度(墨田区住民意識調査)	%	目標値	-	-	-
			実績値	-	19.9	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
会員が公園花壇づくりを行うことで、他の公園利用者に対しても公園利用のモラル向上を図っている。各会員は固定化、個人化、高齢化しているものの、やる気と責任を持って花壇を維持管理している。区は各会員のボランティアに支障を来さないように快適な作業環境の提供と必要な消耗品等の支援を継続的に行っていく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度歳出予算額	988	27年度歳出決算額	358	27年度執行率	36.2%	28年度歳出予算額	1,400
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>平成27年度まで事業に対するニーズは横ばいであったが、28年度から新たに開始する立川第二児童遊園ではコミュニティガーデンの活動に対して積極的な要望があることからニーズは上昇している。毎回コミュニティガーデン委員の募集には必ず応募があるため需要や必要性を感じるが、現に活動を休止した公園もあることから中止や休止の影響は中程度と考えている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>実績値は計画どおり増加しており今後も目標値は達成されると思われる。コミュニティガーデン委員は2年間の講座期間が終了した後、花クラブ(公園ボランティア団体)に継続的に移行し活動している。従って事業の有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業との統合は不可、事業費は横ばい。環境保全課の緑と花のサポーターとの統合について検討の余地があり、一方でまちなか緑化(緑と花のまちづくり推進地域制度)との統合では受益者負担を検討することも考えられる。</p>				
(4)現状と課題	<p>花クラブの一部には、構成員の高齢化や固定化等の問題も生じており、活動休止しているクラブもある。花壇活動は体力を要するものであるため、若手やファミリー層等の後継者育成が喫緊の課題である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の有効性を重視。目標10公園に対し平成27年度末で7公園が実施済み。よって計画どおり推移している。
今後の方向性(見直しの視点)	<p>花クラブの会員は今後も少人数であることが予想されるが、会員自身が常にモチベーションを高く維持できるように、区は会員の花壇に対する考えを汲み取ったうえで可能な限りバックアップを継続する。 また、本事業の趣旨である「歩いて行ける身近な公園を、花とみどりにあふれ誰もが憩えるような特色と魅力ある公園とするため、区民とパートナーシップにより整備・維持管理を図る。今後は特定少数の公園ボランティアのみならず、町会・学校・会社などの団体も活動主体に取り込んで事業の継続を考えていかなければならないと考える。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	公園遊具安全管理事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	公園遊具安全管理事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

平成20年度～27年度 専門業者による遊具定期点検(22年度は未実施) 平成20年度～27年度 遊具定期点検及び結果に基づく使用禁止措置及び改修工事 (点検年度でランクの悪い遊具は、即時改修もしくは使用禁止措置を行い、次年度までには全て改修済み。ただしH22は点検に基づく改修は無い) 平成23年度 公園施設長寿命化計画策定(基礎調査)	事業開始年度	平成20年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
公園遊具利用者					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
遊具点検結果を基に危険度が高い遊具の計画的改修及び撤去と、日常点検にて危険箇所を発見した際の一時使用停止による速やかな補修等					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
利用者が安全で安心して遊具等を使用している					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	専門家による点検遊具数			基	目標値	569	566	559
					実績値	569	566	559
成果指標 (目的に対する指標)	公園遊具の劣化等による事故発生件数			件	目標値	0	0	0
					実績値	0	0	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
遊具の定期点検結果に基づいた改修、撤去及び補修を実施することにより、公園・児童遊園の遊具使用時における事故を未然に防止し、今後も遊具の安全性を確保していく。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度歳出予算額	34,660	27年度歳出決算額	33,161	27年度執行率	95.7%	28年度歳出予算額	26,100
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>ニーズは高い。休止及び中止の影響は大きい。遊具の危険要因を事前に認識し、取り除くことで事故を防止する必要があるため実施する。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標は横ばい。今後も同様に推移すると思われる。専門業者によって実施しているため有効性は概ね適切と思われる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>子ども課が実施している保育園遊具の安全点検と類似しており統合性を検討できる。事業費の推移は横ばい、受益者負担は非該当。専門業者によって実施しているため効率性はある。</p>				
(4)現状と課題	<p>専門業者への業務委託により定期的実施を行っているが、ブランコ等の消耗度が激しい遊具は利用形態によって消耗度が進行するため点検結果が良くても短時間で悪化する可能性がある。そのため日常点検も併せて定期的に行わなければならない。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。利用者の安全確保と事故防止のため健全性を定期的かつ正確に把握する必要があり、現状分析を専門家への委託を通じ事業継続する。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>点検結果に基づき、遊具の撤去・新設や補修に係る費用を平準化にも取り組む。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	こども広場維持管理事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	こども広場維持管理事業費		執行実績報告書ページ	158

1 事業の概要

「こども広場の設置及び管理に関する要綱」に基づき、こども広場16か所を、安全で快適に利用できる環境としていくため、清掃・除草・樹木剪定・害虫駆除・施設改修を適宜、適切に実施し、良好な維持管理を行っている。	事業開始年度	昭和56年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
こども広場利用者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
こども広場内の清掃・除草・樹木剪定・害虫駆除・施設改修	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
幼児、児童の遊び場、区民の憩いの場として、安全、安心、快適に利用できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	こども広場の清掃回数	回/月	目標値	6.0	6.0	6.0
			実績値	5.4	5.4	5.4
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度 (墨田区住民意識調査より)	%	目標値	-	20.0	-
			実績値	-	19.9	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
適宜、適切な清掃等を行い施設の維持管理を行っているため、満足度もほぼ目標値に達している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	こども広場施設費	
27年度 歳出予算額	5,652	27年度 歳出決算額	5,314	27年度 執行率	94.0%	28年度 歳出 予算額	8,493
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
ニーズは横ばい。中止や休止の影響は大きい。継続的に良好な環境を維持するために、利用者の意見・要望を適宜実施していく。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
実績値は横ばい。各内容に応じて専門業者への委託および障害者福祉課の事業により実施しているため、効果的手段と言える。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
類似事業は統合済み。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。各内容に応じて専門業者への委託および障害者福祉課の事業により実施しているため、効果的手段と言える。				
(4)現状と課題	墨田区立公園条例に準じた要綱による管理であるため、今後の面積維持や拡充が不安定である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。清掃、除草、樹木剪定、害虫駆除及び施設改修等を適宜実施している。
今後の方向性 (見直しの視点)	引き続き利用者が快適にこども広場を利用できるよう適正な維持管理を行っていく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

事務事業名	公園新設再整備事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	公園新設・再整備事業費		執行実績報告書ページ	159

1 事業の概要

平成7年に策定した「墨田区公園マスタープラン」に基づく30年計画として開始し、平成22年度に「墨田区公園マスタープラン」を改定し、「積極的に面積を拡大する」、「質を向上する」、「区民とともに育てる」という3つの基本方針に基づき進めている。	事業開始年度	平成7年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
公園利用者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
公園に求められる機能は多種多様であることから、様々な意見を取り入れるよう地元住民が積極的に設計に参加し、特色ある魅力的な公園整備	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
地域のコミュニティの拠点として、また、都市生活の中で憩いを感じることができる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	再整備公園数	園	目標値		0	2
			実績値		0	2
成果指標 (目的に対する指標)	「墨田区の水と緑に豊かさを感じる区民の割合 (墨田区住民意識調査より)」	%	目標値			37.0
			実績値		36.4	45.5

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成27年度は、堤通公園及び立川第二児童遊園の再整備工事を実施した。
 平成27年度で工事完了した立川第二児童遊園については、再整備後に地元町会の地域コミュニティの拠点として機能している。また、工事完了後から、近隣の保育園が利用するようになり、事業の効果が出ていると推察できる。
 なお、平成28年度工事完了予定である堤通公園に関しても、地域や小学校が設計段階から関わっていることから住民の関心も高く、再整備後の住民満足度の向上が期待できる。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園新設改良費	
27年度 歳出予算額	214,724	27年度 歳出決算額	211,154	27年度 執行率	98.3%	28年度 歳出 予算額	333,054
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>墨田区住民意識調査の結果からも、公園・児童遊園の満足度は19.9%と低く、公園再整備に対する区民ニーズは高い。また、施設の老朽化も進んでいることから、公園利用者及び公園管理者の双方の視点からも事業の必要性は高いと考えられ、休止または中止した場合の影響は大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>指数実績値は増加。 墨田区住民意識調査による公園・児童遊園に対する満足度を上げるため、地域の意見を反映した設計・整備を行った。再整備後の公園では町会のイベントが活発に行われるなど、事業の有効性は高い。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>関連事業は無し。受益者負担は該当しない。 住民参加による設計は、参加しない場合に比べて時間や経費は高額となるが、設計段階から近隣住民と接触して工事着手前から住民の理解を得ることができるため、結果的に効率の良い整備となる。</p>				
(4)現状と課題	<p>施設の老朽化が進んでおり公園改修の必要性が高い公園が多数あるため、効率的に区内の公園・児童遊園の中からバランスよく事業を実施する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>事業の効率性を重視。 公園機能の充実を求める区民からの要望は増加しており、公園マスタープランの施策に基づき、特色ある魅力的な公園になるよう引き続き事業を行う。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>曳舟さくら公園の再整備に向け、平成28年度に近隣住民の意見を踏まえた設計を実施し、平成29年度に再整備を施工する。 また、平成28年度に完了予定の堤通公園の再整備を近隣住民の理解を得ながら円滑に進めていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第1回定例会(産業都市委員会)	
	要旨	立川第二児童遊園の名称について	

事務事業名	親水公園整備事業			道路公園課維持担当
施策	132	水と緑に親しみ、安らぎが実感できる空間をつくる	連絡先	03-5608-6410
予算書名称	親水公園整備事業費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

大横川及び豎川親水公園は、江東内部河川整備計画(S46年)により計画外河川として位置付けられた区間を埋立て、水と親しめる、ふれあい空間として親水公園を整備したものである。未整備区域についても親水公園として整備するよう計画している。 また、H19～23年度に新タワー関連事業として「大横川親水公園歩行者空間再整備事業」も別途行い、園路のバリアフリー化、橋下水路改修、サイン設置、テニスコート整備を行っている。	事業開始年度	平成5年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
親水公園利用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
快適なまち歩きやくつろぎの場、水辺とその周辺が一体となった魅力的な親水空間として整備、また水辺歩行者ネットワークを完成させるため大横川・豎川の未整備区域の整備					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
都市生活の中で都市レクリエーションの場として、また水と緑、潤いを感じることができる場所となるような					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	未整備区域の整備面積 (大横川親水公園未整備区間:2,811.47.13m ²) (豎川親水公園未整備区間:13,040.23m ²)		m ²	目標値	2,811.5	2,811.5	2,811.5
				実績値	0	0	0
成果指標 (目的に対する指標)	公園・児童遊園に対する満足度 (墨田区住民意識調査より)		%	目標値	-	20	-
				実績値	-	19.9	-
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
大横川と豎川の合流点付近において他事業との工程調整等を行っているが、江東内部河川整備や橋梁架替事業との連携、更には、両親水公園のネットワーク構築を含めた整備内容の検討、調整が事前に必要であることから予算化は見送っている。そのため実績は上がっていない。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率		28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>ニーズは横ばい。中止及び休止の影響は大きい。東京都施工の河川工事も引き続き行われており、河川工事と合わせた水辺空間の整備は、質の高い良好な公園環境を利用者に提供するため必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>実績値は横ばい。河川区域を活用することで「水都すみだ」を来街者へアピールすることもできるため有効と考えられる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>類似事業との統合はできない。河川工事や橋梁架替え事業に合わせて事業を進める予定であり効率的である。</p>				
(4)現状と課題	<p>大横川親水公園、豎川親水公園の合流部分(未整備区間)を一体化させ、相互の利便性を改善させる課題がある。 また、横十間川等整備事業とも連携して豎川親水公園を整備し、横十間川へのネットワーク化も検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。
今後の方向性 (見直しの視点)	東京都の河川工事、新辻橋・松本橋架替え等の事業と連携した整備、公園・児童遊園用地賃借料事務と連携した用地取得など、他事業と連携した事業の進め方を引き続き検討していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	平成28年 予算特別委員会	
	要旨	親水公園を活用した小規模保育について(意見陳述・待機児童対策)	